

令和2年度 江戸川区立葛西小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	○心ゆたかな子ども ○最後までやり抜く子ども	○よく考える子ども ○健康な子ども	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・保護者にとって、子どもを通わせてよかった、と思える学校 ・「確かな学力」「豊かな心」「健康な体」をバランスよく備えた子ども ・人権尊重の精神に富む教師。保護者や地域との連携に努め、誰からも慕われる教
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>併設型小中学校の開設により、合同行事をはじめとする生活指導面、学習指導面での連携に着手できた。 校庭が未完成の中、場所や活動内容を工夫した体力作りができた。全教員が協働して、児童の健全育成に当たった。 <課題>併設型小中学校の更なる教育活動の推進。(カリキュラム・マネジメントによる学力の向上、生活指導、心の教育) 児童の運動能力の増進			

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・校内研を核として、算数・数学の系統性確立	・小中学校の算数・数学の授業参観学期1回以上 ・長期休業後の不登校児0	B	C	○中学校の都教委訪問への参観、小学校の校内研への参観と、小中相互の交流ができた。 ●協議会への参加に代わる、意見交流ができること良い。 ○完全不登校は0である。		・算数、数学の系統性を重視した中学校教員の小学校への乗り入れ授業及び、小学校教員がTとして中学校の授業により
	国際理解教育の推進	日本語学級と連携した、国際理解の醸成とグローバルな視野をもつ児童の育成	・教員による、日本語学級での授業理解 ・国際理解教室における児童の相互理解	・全教員日本語学級の参観 ・4年生との国際理解教室実施	C	C	○●小中授業参観週間を設けたので、日本語学級の参観もできたが、全教員参観には至らなかった。 ○4年4クラスがそれぞれ1回ずつ、通級児童との交流を行った。 ●他校からの通級児童との時間調整		・より多くの児童と通級児童の交流を実施し、日本以外の、その国ならではの文化や風習とを直接学ぶ場を設け
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	・ICT校内研修 年3回実施 ・eライブラリー補習 3年以上年2回 ・情報主任によるICT活用授業公開 年2回以上	・ICT活用可能な児童 中学生年 5割 高学年 9割 ・教室でのタブレットPC活用 全教員 週1回以上	A	A	○ICT活用可能な児童は大幅に増加 中・高学年ともに9割以上 ●GIGAスクール構想に向け、低学年にも活用できる力を身に付けさせる。 ○教員のタブレットPC活用は目標値と同様に超えている。		・児童のPC活用能力を育成するために、日頃の学習でも、児童の積極的な活用を促す。 ・情報担当による校内ICT研修や授業公開の場を増やす。
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	・生活指導全体会での情報共有 1学期 ・コーディネーターによる研修会実施 年1回 ・ユニバーサルデザインを考慮した教室環境整備 通年 ・巡回指導教員との連携 随時	・学校評価での肯定的評価 9割以上 ・巡回指導員との情報共有 毎回	A	A	○学校評価では肯定的評価8割。 ●「よくわからない」数値を減らすために特別支援教育について、学校より等で保護者への啓発が必要である。 ○巡回指導員とコーディネーター、担任管理職は情報共有を密に行った。教室環境も整えている。		・学校よりや、全校保護者会において、特別支援教育の充実について保護者に周知する。 ・巡回指導員による、特別支援教育に関する研修を実施し、通常の学級に在籍する児童への、教室での支援の在り方を共通理解する。
いざいさと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	・全教員の授業公開 年1回以上 ・放課後補習教室 年25回以上	・単元末のテストで8割以上の児童 低学年 8割 高学年 9割 ・補習教室は実施できた。	B	B	・単元末のテストで8割以上の児童 低学年 8割 高学年 7割		・高学年になると、学習内容が高度になるだけでなく、量も増えてしまう。机間巡視や課題の達成度を見て、個別指導を更に充実させる。
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実 ・読書科ノートの活用など、探究活動、探究的な学びの充実 ・学校図書館を使った授業の充実	・図書館での読書活動 低学年 毎週 ・図書館を活用した調べ学習 高学年 学期3回	・調べる学習参加…50人 ・年間読破 低 70冊 中 50冊 高 20冊	B	B	●コロナの為、夏季休業が短縮され、長期にわたっての調べる学習への取り組みが難しかった。参加人数は4人。 低学年は国語や生活の授業での調べ学習に図書館の本を年間通じて活用した。 ○自宅学習期間で、家庭での読書時間は増加した。朝読書でも各クラスが		・調べる学習は、GIGAスクール構想においても充実させている。 ・図書館の蔵書が増えたので、特に低学年の図書館の時間を活用し、本好きの児童を増やす。
オリパラ教育の推進	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・走る・投げるを中心とした運動遊びの実施 ・冬期、持久走タイムの実施	・全校運動遊び 年間 20回 ・新川で行う持久走大会 前年度の記録更新	B	C	○コロナの為に、全校運動遊びに代わり、体育館で年3回の運動月間を設け、各クラスで活動の取り組みさせた。 ○持久走大会は校内での実施に代えて実施。取り組みはできた。		・家庭・ドッジボールコート・中庭等を活用した、全校運動遊び計画を十分立て、走力・跳力・投力をバランスよく身に付けられるような運動遊びを計画す
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	・図書館にオリパラコーナー特設 児童玄関前フロアの活用 ・ボランティア活動、挨拶運動の実施	・オリパラ読本、コーナー活用の授業 高学年全クラス実施 ・4年 思いやり活動実施 年2回 ・挨拶運動	A	A	○全校でオリパラコーナー作りに取り組み、オリパラ関連の授業を実施した。 ○4年の思いやり活動は、各クラス実施し、相手の立場を考えた行動をしていくという事後の感想が多かった。		・家庭・ドッジボールコート・中庭等を活用した、全校運動遊び計画を十分立て、走力・跳力・投力をバランスよく身に付けられるような運動遊びを計画する
外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	授業力の向上とALTの効果的な活用	・小中学校教員の授業交流 ・給食、休み時間、国際理解教室等ALTとの交流	・小中相互授業参観 学期1回 ・中学校教員の乗り入れ授業 6年各クラス 2回	A	A	○学期1回の授業参観には、小中相互の教員が参加し、事後の意見交流もできた。 ○乗り入れ授業後の児童の感想には、英語の学習に対しての前向きな		・授業参観の機会を増やすために、授業参観週間として小中学校の教育課程に組み込む。 ・乗り入れ授業を2学期
	健全育成に向けた取組の強化	いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・生活指導朝会での情報共有 毎週 ・校内委員会 随時	・いじめ・不登校早期発見 早期解決 年度末 いじめ・不登校0	A	A	○年3回の、いじめ調査の実施で未然防止と早期発見に努めた。保護者や児童からの相談には担任・学年で早期に対応を図った。 ●完全不登校はいない ●今後も不登校の要因を排除できる学級経営・児童理解に努める。		・年3回のいじめ調査は継続させる。Q-Uの結果分析を確実に実施し、児童の人間関係の把握に努め、いじめ、不登校の未然防止・早期発見に生かす。